

内閣総理大臣 表彰

厚生労働省推薦

株式会社 アステム

(大阪府大阪市)

【概要】

➢ 株式会社 アステムは、1974年の設立直後から行政や団体のビデオ映像による広報制作に取り組み、1995年の阪神・淡路大震災でテレビの音声情報を得られない聴覚障害者の苦難を知り、手話と字幕で情報を得ることができる「目で聴くテレビ」の設立に参加、障害者の声を踏まえた技術や工夫により、ニュース番組や動画、シンポジウム、セミナー等において、字幕・手話通訳・音声解説を付与し、様々な局面でのSDGsの理念に対応した情報アクセシビリティの向上に寄与している。

【功績・功労】

➢ 全日本ろうあ連盟、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会とともに、手話言語と字幕で情報を得ることができる「目で聴くテレビ」の設立にコアメンバーとして参加、専用受信装置「アイ・ドラゴン」を開発した。「アイ・ドラゴン」シリーズは身体障害者日常生活用具に指定され全国に約20,000台普及、1つの画面で映像と手話通訳、字幕の同時視聴を可能としている。ニュース番組や緊急災害放送の手話通訳・字幕付でのリアルタイム視聴や、オリジナル手話付き番組等約1,000本を24時間いつでもアーカイブで視聴可能である。



「目で聴くテレビ」メニュー画面



聴覚障害者用情報受信装置
「アイ・ドラゴン4」



映像・手話・字幕を1画面に表示



「目で聴くテレビ」番組(大臣会見)

➤ 「アイ・ドラゴン」での手話・字幕の表示方法がきっかけとなり、2015年国際電気通信連合 (ITU-T) でアクセシビリティ情報の表示に関する国際標準規格が成立。2016年には、(一社)情報通信技術委員会 (TTC) 国内標準規格となった。

現在、エクアドルの視聴覚障害者放送アクセス向上事業の実証実験(手話、英語字幕)を実施している(JICA採択事業)。



エクアドルの身体障害者団体でのアイ・ドラゴンの実演

➤ 地上デジタル放送への移行後、テレビ音声
がラジオで聞けなくなった視覚障害者の声に応え、「テレビが聞ける」ラジオを開発、全国の約4分の1の市町村で身体障害者日常生活用具に指定され、全国に約8,000台普及した。



「テレビが聞ける」ラジオ



側面

➤ 国の審議会等の情報保障を数多く担当し、聴覚障害のある委員の特性等に配慮した席の配置や手話通訳者、字幕入力者の配置など、情報保障に数多くの経験を活かし、会議の中で聴覚障害者委員への手話通訳・字幕による情報保障を行うとともに、会議の動画に手話、字幕を付与して全国の障害者も会議の様子を視聴可能となる取組を実施してきた。

➤ 警察職員に対して、障害を理由とする差別の解消、障害者への接遇の在り方等について教養を実施するための映像教材を収録したDVDを制作し、全国の警察で活用されている。また、「障害者差別解消法」の解説については、「手話・音声ガイド付き」のものを作成し、全国の警察職員が視聴覚障害者に関心を寄せるきっかけとなっている。



障害者への接遇DVD